

第4節 糖尿病対策

【現状と課題】

現 状

1 糖尿病の現状

2型糖尿病は、肥満や食生活、運動、ストレス等の生活習慣が発症に密接に関連しており、市町保健センター、職域保健機関、地域産業保健センターなどが地域住民に対して普及啓発を始めとする糖尿病予防、発症予防の取り組みを行っています。

糖尿病は初期には自覚症状がほとんどないために、発見が遅れたり、治療を中断する例が多くなっています。平成 23・24 年度に愛知県が実施した「糖尿病治療に関する調査」によると通院中の糖尿病患者の 13%に治療中断経験がありました。また、再受診した理由で最も多かったのは「放置すると重症化することを知ったから」でした。

新規透析導入者のうち、発生原因を症例別にみると、糖尿病腎症が最も多く、3割を超えている状況です。(表 2-4-1)

「健康日本 21 あいち新計画」においては、糖尿病腎症による年間透析導入患者の減少を重点項目としています。

2 予防

市町等では、特定健康診査などで糖尿病などの生活習慣病予防に努めています。

糖尿病の発症予防のため、適切な生活習慣の普及啓発に努めています。

3 糖尿病医療の提供体制

愛知県医療機能情報公表システム（平成24年度調査）によると食事療法、運動療法、自己血糖測定の糖尿病患者教育を実施している医療機関は14病院あります。

平成 22 年度医師・歯科医師・薬剤師調査によると、主たる診療科が糖尿病（代謝内科）の医師数は 14 名、糖尿病専門医は 10 名、内分泌

課 題

糖尿病予備軍の人でも、肥満、高血圧、高脂血症を合併すると、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の状態となり、動脈硬化が進行する結果、心筋梗塞、脳梗塞が起こりやすくなることから、日常的に適切な生活習慣を保持するとともに、定期的に特定健診・保健指導を受け血糖値などメタボリックシンドロームの管理を行う必要があります。

糖尿病は発見の遅れや、治療中断のために、糖尿病腎症や増殖性網膜症などの重症合併症につながりやすいことから、未治療者や治療中断者に対して、糖尿病の知識普及・啓発を行うとともに、定期的に受診して治療できるようにするための体制づくりが重要です。

メタボリックシンドロームは、糖尿病等の基礎病態であることが多いため、特定健診の受診率を高め早期のリスク改善を促す必要があります。

糖尿病ハイリスク者に対して、健診後の適切な保健指導、受診勧奨を行う必要があります。

糖尿病の予防、重症化予防には、保健所・市町・職域・医療機関等が連携して、人材・環境・情報の整備を進める必要があります。

事業所などを含めた、治療を受けやすい体制や治療中断者への対応について検討する必要があります。

代謝科専門医は5名です。

糖尿病と診断されたばかりの患者や境界型の患者への初期教育は、外来診療で行っておりますが、血糖コントロール不良時、インスリン自己注射導入時、合併症がある場合などには、教育入院を実施しています。

4 医療連携体制

平成21年度患者一日実態調査によると糖尿病患者教育入院を実施している医療機関は12施設あり、平成21年6月1月間の各医療圏から当医療圏への教育入院患者数は63人です。また、当医療圏から各医療圏への教育入院患者数は73人です。(表2-4-2、表2-4-3)

近年、糖尿病と歯周病は相関関係があり、両者が互いに他方を悪化させるといわれています。このため、教育入院時や教育外来時における歯周病教育の実施、合併症管理・重症化予防のための歯科診療所との連携を行っている病院もあります。

愛知県医師会では、ホームページを通じて、糖尿病教育入院予約システムを運用しており、病診連携の活性化を図っています。

糖尿病患者には歯周病の、歯周病患者には糖尿病の、早期発見・治療が重要になると考えられます。このため、歯周病教育の実施や、医科と歯科の連携に積極的に取り組んでいく必要があります。

愛知県医師会の糖尿病教育入院予約システムの円滑な運用が重要です。

【今後の方策】

若年からの教育や正しい生活習慣の在り方を習得することによる予防効果が大きいことから、学校保健や産業保健と連携して予防対策を推進していきます。

糖尿病患者が適切な生活習慣及び治療を継続できるよう、病院、診療所、歯科診療所、保健機関、事業所等との連携を図り、糖尿病初期教育、治療中断者への対応、糖尿病腎症や網膜症などの合併症治療等、糖尿病の各段階に合わせた適切な医療体制の構築を検討していきます。

病診連携、医科歯科連携を推進することにより、効果的・効率的な糖尿病医療の提供を図ります。

表2-4-1 人工透析の平成23年新規導入患者数及び糖尿病腎症からの導入患者数

	<u>発生件数</u>	<u>うち糖尿病腎症</u>
<u>春日井市</u>	<u>48人</u>	<u>13人 (27%)</u>
<u>犬山市</u>	<u>12人</u>	<u>3人 (25%)</u>
<u>江南市</u>	<u>27人</u>	<u>12人 (44%)</u>
<u>小牧市</u>	<u>31人</u>	<u>11人 (35%)</u>
<u>岩倉市</u>	<u>15人</u>	<u>7人 (47%)</u>
<u>大口町</u>	<u>2人</u>	<u>0人 (0%)</u>
<u>扶桑町</u>	<u>8人</u>	<u>3人 (38%)</u>
<u>合計</u>	<u>143人</u>	<u>49人 (34%)</u>
<u>愛知県</u>	<u>1,523人</u>	<u>620人 (41%)</u>

資料：平成23年末現在 慢性腎不全患者の実態（愛知腎臓財団）

表2-4-2 各医療圏から尾張北部医療圏への教育入院状況（平成21年6月30日）（人）

患者住所地														
区分	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三北部	西三南部東	西三南部西	東三北部	東三南部	県外等	計
患者数	1	0	4	1	1	53	0	0	1	0	0	0	2	63

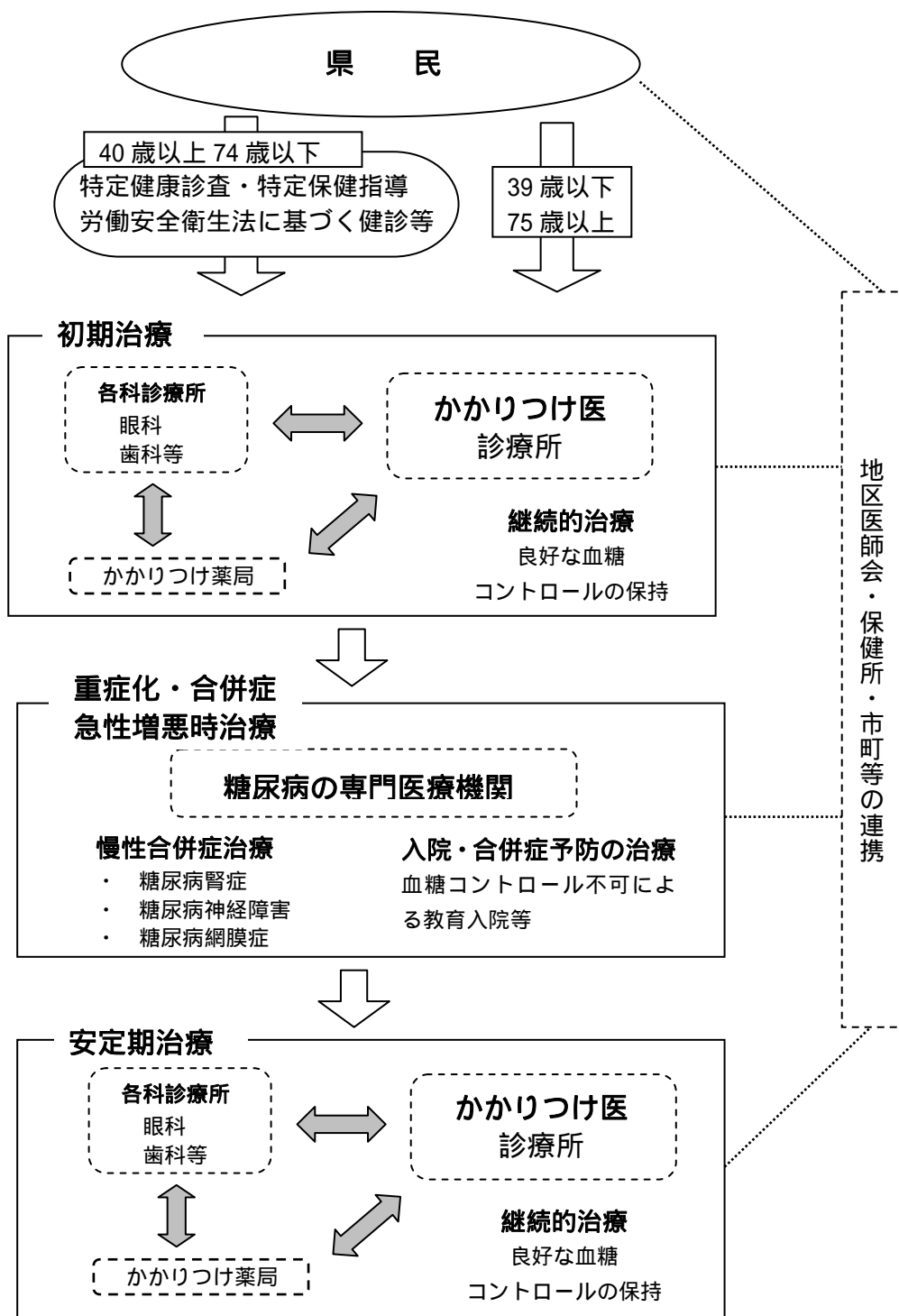
資料：平成21年度患者一日実態調査 他医療圏受入率：16.1%

表2-4-3 尾張北部医療圏から各医療圏への教育入院状況（平成21年6月30日）（人）

医療機関所在地														
区分	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三北部	西三南部東	西三南部西	東三北部	東三南部	県外等	計
患者数	5	0	1	8	6	53	0	0	0	0	0	0	0	73

資料：平成21年度患者一日実態調査 医療圏完結率：71.2%

糖尿病医療対策に関する体系図



【体系図の説明】

特定健康診査・特定保健指導や労働安全衛生法に基づく健診等により糖尿病の早期発見や糖尿病予備群のリスクを発見し、受診や生活習慣の改善を促します。

かかりつけ医による定期的な治療において、日常の血糖管理の状態を把握し、重症化や合併症の予防を促します。

重症化した場合や急性増悪時には、糖尿病専門医療機関で治療を受けます。

症状が安定した場合には、かかりつけ医において継続的な治療を受けます。